

コモディティクラウド

VS.

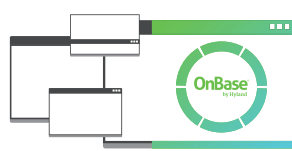
ハイランドクラウド

クラウドへの移行は、あらゆる組織のデジタルトランスフォーメーションの取組みにおいて重要です。コンテンツサービスソリューションをどこでどのようにホストするか決める場合、パブリックコモディティクラウドを活用する、またはハイランドクラウドのようなプライベートクラウドを利用するという2つのオプションがあります。

ハイランドクラウドは、情報管理を目的として構築され、ハイランドコンテンツサービス用の成熟した、実績のある、プライベート管理されたホスティングプラットフォームです。

アーキテクチャから災害復旧まで、コモディティクラウドとハイランドクラウドソリューションの展開には大きな違いがあります。以下で、クラウドホスティングの選択肢を検討する場合に留意すべき10の重要事項を説明します。

コモディティアーキテクチャは、あらゆるタイプのITアプリケーションをホストするに十分な柔軟性と汎用性を持つように設計されています。



アーキテクチャ

ハイランドクラウドアーキテクチャは、ハイランドのコンテンツサービスアプリケーションをホストするために特別に設計、最適化されています。

お客様はアプリケーションのインストールとアップグレードを管理する責任を負います。



インストールとアップグレード

ハイランドは、アプリケーションのインストールやアップグレードをすべて管理します。そのため、お客様による管理は不要です。

お客様は本番環境と同期するために、テスト環境の更新やリフレッシュを管理する必要があります。



テストシステムのメンテナンス

ハイランドは新しい装置やサービスを含むテスト環境の更新とリフレッシュを管理します。

お客様はサーバー数、役割、パッチ、セキュリティ、およびそれらがどのように相互作用するかなど、サーバーのニーズを決定する必要があります。



サーバー、パッチ、インフラストラクチャの保守

お使いのソリューションに最適なサーバーや役割の設定はハイランドが実行します。ハイランドクラウドのエンジニアがパッチや保守を含め、すべてのサーバーを透過的に管理するため、ユーザーによる関与は必要ありません。

お客様はすべてのハードウェア、ソフトウェアの購入に関し、決定、指示、発注、管理する必要があります。



ハードウェア/ソフトウェアの調達

ハイランドは適切なハードウェアとソフトウェアを決定し、お客様の手を煩わせることなく発注とインストールを行います。

ソリューションのパフォーマンスと可用性を最適化するようにサーバーを設定するには、追加のコストがかかります。



高可用性

すべてのソリューションは、高可用性アーキテクチャとN+1の冗長性を備えています。

コモディティクラウドは、インフラストラクチャレベルでのコンプライアンス要件をサポートしますが、アプリケーションのコンプライアンスを自ら管理し、確保する必要があります。



監査とコンプライアンス

ハイランドは、コンプライアンスサポートをインフラストラクチャからアプリケーションレベル、そしてハイランドクラウドプラットフォームを管理しているチームにまで拡大します。

コモディティクラウドでは、アプリケーションに特化した復元ではなく、データベースとディスクの復元に焦点を当てた基本的な災害復旧機能を提供しています。こうした要素は通常、組織に追加のコストを負担させます。



災害復旧

ハイランドクラウドで展開するすべてのソリューションは、追加のコストをかけずにハイランドアプリケーションに合った災害復旧実装のメリットを得られます。

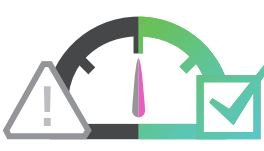
コモディティクラウドでは、インフラストラクチャの監視はしますが、アプリケーションの監視はしません。



監視とアラート管理

ハイランドは、インフラストラクチャとすべてのアプリケーションの両方を24時間年中無休で監視し、インシデント管理を内蔵しています。

帯域幅の使用には項目ごとの料金が適用され、特にコンテンツの大量アップロードなど、過剰な帯域幅の使用には追加のペナルティが適用される場合があります。



帯域幅

帯域幅にかかる費用はすべてハイランドが負担しています。お客様が帯域幅の使用に対してペナルティを受けることはありませんし、帯域幅の上限や速度制限を受けることもありません。

詳細は Hyland.com/Cloud をご確認ください。

Hyland